



SOMPOアセットマネジメント

A Theme Park for Security, Health & Wellbeing

# 経済・金融市場見通し

2023年11月

2023年11月20日発行

SOMPOアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者関東財務局長（金商）第351号  
加入協会／一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

# 経済・金融市場見通し： 国内

## 経済環境

### ：景気回復は緩やかなものになる

日本経済については、引き続き、緩和的な金融政策やインバウンド需要などが景気を下支えすると考えます。ただし、人手不足による供給制約や海外景気の減速などにより、今後、景気回復は緩やかなものにとどまると予想します。

物価については、9月の消費者物価指数（除く生鮮食品）は前年比2.8%（8月3.1%）となりました。今後は、前年対比で食料品価格等が下落に転じることから、年後半にかけて2%台半ばの伸び率に鈍化すると予想します。

日銀は10月末の金融政策決定会合で、イールドカーブ・コントロール政策の更なる柔軟化を行い、1%超の10年金利水準を許容することを示しました。また、同時に発表された「経済・物価情勢の展望」において、物価見通しを上方修正しました。日銀は物価と賃金の好循環を見極める姿勢を強調しているため、目先は現在の緩和政策を継続する可能性が高いと予想します。ただし、為替変動は日本の物価に与える影響が大きいいため、急激な円安が進行する場合は、日銀が早期の政策修正を迫られる可能性があると考えます。

## 債券市場

### ：金利は上昇基調ながら、上昇幅は限定的と予想

#### ◆ 前月の振返り

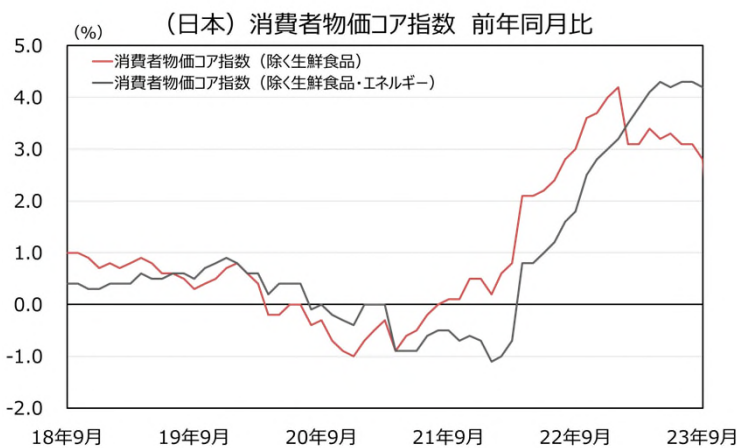
10月の10年国債利回りは上昇（価格は下落）しました。

日銀の金融政策決定会合で金融政策が正常化に向けて修正されるとの見通しが高まったことや、影響の大きい米国金利が上昇したことを受けて、月初より利回りは上昇傾向で推移しました。31日の金融政策決定会合で、日銀は1%超の10年金利水準を許容することを示したため、利回りは一段と上昇しました。

#### ◆ 見通し

今後については、金利は上昇基調ながらも上昇幅は限られてくると予想します。

日銀が許容する金利上限が柔軟化された環境下、物価が依然として高水準にあることから今後も金利は上昇しやすいと考えます。ただし、現在の日銀の姿勢を勘案すると政策金利自体の変更は目先は見込み難く、急激な円安が進行しない限り長期金利の上昇余地は限られると予想します。



	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
国内債券 10年国債利回り	0.32%	0.95%	0.95%	1.10%	1.15%	1.15%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、S O M P Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 国内

## 株式市場

### ： 上値が重い状況が続くと予想

#### ◆ 前月の振り返り

10月の国内株式市場は、下落しました。

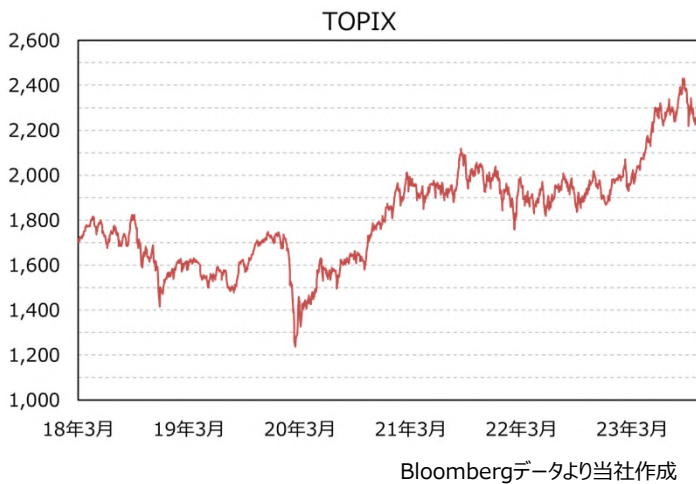
国内外で長期金利が上昇したことや中東で地政学リスクが高まったことから下落しました。

#### ◆ 見通し

今後については、上値が重い状態が続くと予想します。

企業業績は、10月から本格化した第2四半期決算においても、好調な米経済や国内の経済活動正常化の進展、円安効果などを背景におおむね堅調に推移していますが、欧米の引き締め的な金融政策の長期化がグローバル経済に及ぼすマイナス影響や中国経済の回復の鈍さ、地政学的リスクの高まりを考慮すると、来年度に向けては期待が高まりにくいと考えています。

一方、バリュエーションに割高感はなく、東証の要請に応じた資本効率改善への期待、高水準の自社株買いに代表される良好な株式需給環境が支えとなるため、国内株式市場が大きく崩れる展開は想定しづらいと考えますが、業績拡大期待を伴う上昇局面を迎えるまでにはまだ時間を要すると見ています。



	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
国内株式 TOPIX	2,003.50	2,253.72	2,250	2,250	2,300	2,350

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、S O M P Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 米国

## 経済環境

### ： 景気減速を予想

米国経済については、金融政策の引き締めにもかかわらず堅調に推移している一方、今後は金融引締め効果が本格的に発現することが想定され、減速する展開を予想します。

個人消費支出価格指数は、変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数で、9月は前年比3.7%（8月3.8%）となりました。また、10月の失業率は3.9%（9月3.8%）となりました。

11月のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、経済に対する評価引き上げと直近の長期金利上昇の影響を踏まえ、政策金利の据え置きが決定されました。一方、引き続き追加引き締めの可能性についても言及しており、マーケットが期待するような利下げには程遠い事が伺えます。



## 債券市場

### ： 目先は金利は高水準での横ばい圏推移、その後は金利低下基調を予想

#### ◆ 前月の振返り

10月の米国10年債の利回りは上昇（価格は下落）しました。

景気の底堅さを示す経済指標や、国債発行額の増加を受けて財政悪化懸念が強まったことを受けて、金利は大きく変動しつつ上昇基調で推移しました。

#### ◆ 見通し

今後については、目先は高金利水準で推移し、その後は金利低下基調を予想します。

物価上昇のピークアウトは確認されるものの依然として高水準にあり、足もとでは景気の底堅さが見られるため、目先は金利が低下しにくいと考えます。一方、金融引き締めは最終局面に近く、これまでの引締め効果の発現により、今後は個人消費を中心に景気減速基調を予想することから、金利は徐々に低下基調に転じていくと考えます。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
米国債券 米国10年国債利回り	3.47%	4.93%	4.60%	4.50%	4.20%	4.00%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 米国

## 株式市場

：好悪材料が入り混じった一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

10月の米国株式市場は下落しました。

月初は、9月の米雇用統計が堅調な雇用の増加を示したことで株式市場は上昇しました。その後、イスラエルとハマスの武力衝突による地政学リスクの高まりに加えて、パウエルFRB（米連邦準備理事会）議長が講演で追加的な利上げの可能性を示唆したことや、米CPIが市場予想を上回ったことによって金融引き締めへの長期化が懸念され、株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

11月のFOMC会合では政策金利が2会合連続で据え置きとなるなど利上げが最終局面となった一方で、長引く高金利による信用コストの増大を背景とした貸出基準の厳格化や、米国消費者が裁量消費を抑制していることが企業業績に影響を与える可能性があるため、一進一退の展開を予想します。



## 為替市場

：米国の高金利政策の長期化観測により、当面はドルの底堅さを継続

### ◆ 前月の振り返り

10月のドル円相場は、円安ドル高となりました。

米国の強い雇用や消費者物価指数の伸びを受けた米国金利の上昇がドル高要因となったほか、月末の金融政策決定会合で日本の金融緩和継続姿勢が示されたことを受けて円が売られたため、円安ドル高となりました。

### ◆ 見通し

今後についても、当面はドルの底堅さが継続すると予想します。

足もとは日本の金融緩和が継続する一方で米国は高金利政策の長期化が見込まれることから、日米金利差縮小への転換にはなお時間がかかり、当面はドル高圧力は維持されると予想します。一方で、米国の金融引き締めは最終段階にあり、日本は金融政策の正常化に向かう兆しがあるため、年明け以降は円安ドル高圧力が徐々に抑制されてくると予想します。



	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
米国株式 S&P500	4,109.31	4,193.80	4,400	4,450	4,500	4,550
為替 米ドル/円	133.09	151.45	151.00	149.00	147.00	145.00

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 欧州

## 経済環境

### ：潜在成長率以下への成長継続を予想

欧州経済については、景気に減速感が見られるなか、引き締め的な金融政策を継続しており、潜在成長率以下の成長が継続する展開を予想します。

物価については、10月の消費者物価指数は変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数で前年比4.2%（9月4.5%）となりました。

10月のECB（欧州中央銀行）理事会では、11会合ぶりとなる主要金利の据え置きが決定されました。ユーロ圏では景気の減速感が目立つ一方、物価上昇率は引き続き高く、今後もECBは難しい舵取りが要求されます。

## 債券市場

### ：目先は横ばいも、その後は低下基調での推移を予想

#### ◆ 前月の振り返り

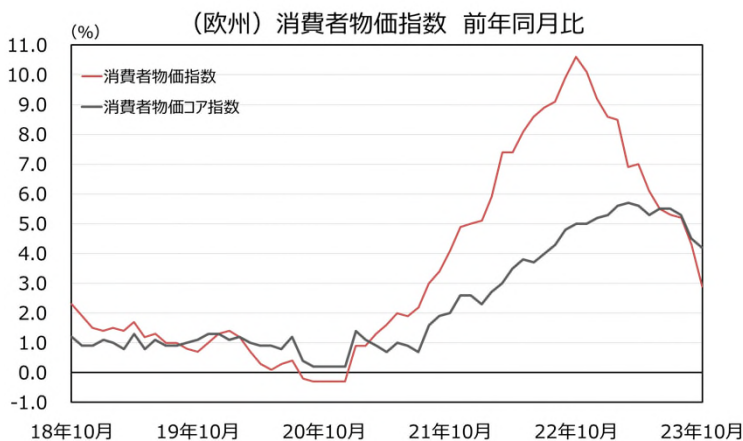
10月のドイツ10年債の利回りは低下（価格は上昇）しました。

物価上昇率が鈍化傾向となったことや、ECBが政策金利を据え置いたことで今後の金融引締め見通しが後退し、金利は低下しました。

#### ◆ 見通し

今後については、目先は横ばい圏で推移し、その後は金利低下基調を予想します。

ECBがデータ重視の姿勢を示していることから短期的に上下に変動しやすいものの、物価は高水準ながら低下基調であり、また、欧州景気も悪化していることから、その後は引締め的な金融政策からの転換が意識されやすいと考え、金利は低下方向での推移を予想します。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
欧州国債 ドイツ10年国債利回り	2.29%	2.81%	2.70%	2.60%	2.50%	2.40%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 欧州

## 株式市場

： 欧州金融政策や中国景気の動向等から、一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

10月の欧州株式市場は下落しました。

月初は、8月の独製造業受注が堅調だったこと等を背景に株式市場は上昇しました。その後、イスラエルとハマスの武力衝突による地政学リスクの高まりに加えて、パウエルFRB議長が講演で追加的な利上げの可能性を示唆したことや、米CPIが市場予想を上回ったことによって金融引き締め長期化が懸念され、株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

10月のECB理事会では政策金利維持を決定し、11会合ぶりの金利据え置きとなった一方で、ラガルドECB総裁は金融環境の引き締まりを理由に経済成長の下振れリスクを指摘していることや、中国景気の悪化が企業業績に影響を与える可能性があることから、一進一退の展開を予想します。



## 為替市場

： ユーロ圏の景気減速からユーロの上値は抑えられる

### ◆ 前月の振り返り

10月のユーロ円相場は、円安ユーロ高となりました。

日本の金融当局による為替介入への警戒感や月末の政策決定会合における政策修正観測が高まったことが円を下支えし、月中は横ばい推移しました。しかし、日銀金融政策決定会合において金融緩和継続姿勢が示されたことが円安要因となり、月末に円安ユーロ高が進みました。

### ◆ 見通し

今後については、横ばい圏内での推移を予想します。

日本の金融政策が正常化に向かう兆しがあり、これまでの円安圧力は抑制されると予想します。一方で、ユーロ圏のインフレは引き続き高水準ながらもピークアウトしつつあり、これまでの利上げ効果の波及により景況感が悪化していることを受けてECBはデータ重視の姿勢を示していることから、ユーロの上値は抑えられると予想します。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末実績値	23年10月末実績値	23年12月末予測値	24年3月末予測値	24年6月末予測値	24年9月末予測値
欧州株式 MSCI EUROPE指数	1,860.70	1,757.61	1,775	1,800	1,830	1,840
為替 ユーロ/円	144.60	160.08	160.82	158.69	156.56	156.60

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMPPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 新興国

## 経済環境

### ：中国は景気鈍化継続 新興国は金融緩和方向へ変更する国が増える

中国では、鉱工業生産や固定資産投資、輸出額などの主要経済指標がいずれも景気鈍化を示唆しているほか、大手不動産会社の実質上のデフォルトを受けて新規住宅販売額が依然として低迷しており、住宅販売の持ち直しやそれに伴う本格的な景気回復に時間がかかると考えられます。

政策面では、全人代常務委員会が1兆元規模の国債発行を承認したなど景気刺激策に進展が見られたものの、外需不振や不動産ショックの悪影響を相殺するには十分とは言えず、景気鈍化局面から脱出するために耐久財向けの補助金など追加的な景気対策が必要だと考えられます。

新興国においては、これまでの利上げの累積効果や先進国の景気減速を受けて、当面は景気が減速すると思われませんが、内需が総じて底堅いなかで、インフレ圧力の緩和から利下げをする国も出始めており、来年は持ち直し傾向に転じる可能性が高いと考えます。

## 債券市場

### ：利下げ開始により、利回りは徐々に低下すると予想

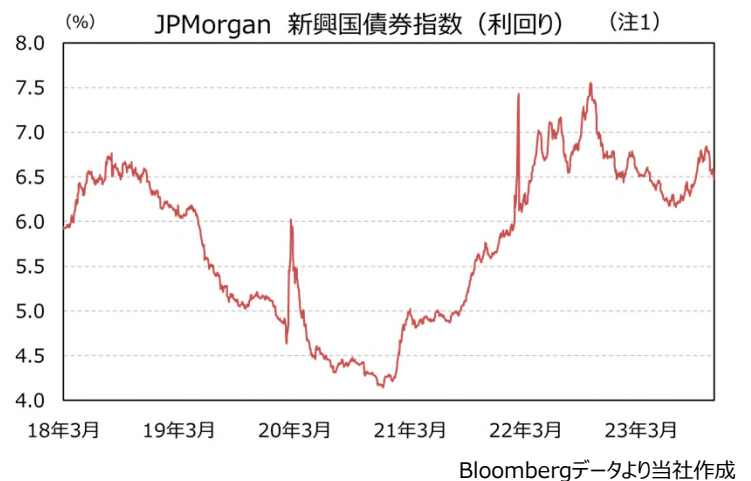
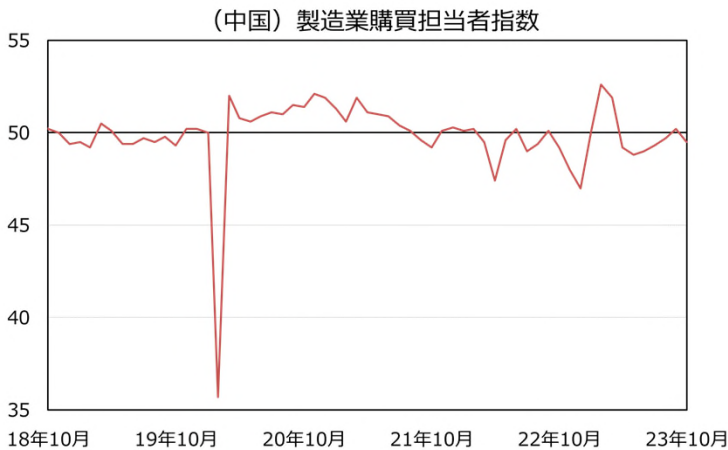
#### ◆ 前月の振返り

10月の新興国債券市場の利回りは上昇（価格は低下）しました。

米金利が上昇したことを受けて、新興国債券市場の利回りも上昇しました。中央銀行総裁が市場の利下げ加速期待を牽制したブラジルや、通貨防衛のために中央銀行が利上げを実施したインドネシアなどの利回りが上昇しました。

#### ◆ 見通し

今後については、新興国においてもインフレ圧力の緩和から利下げを開始する国も出始めており、利回りは徐々に低下すると考えます。



	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
新興国債券 JPMorgan新興国債券指数 (利回り) (注1)	6.52%	6.76%	6.50%	6.40%	6.30%	6.20%

予測値は予想レンジの中心値を記載

(注1) JPMorgan GBI-EM Global Diversified Index Excluding BB- Rated CountriesについてBloombergデータより当社作成

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。



## 株式市場

：景気鈍化と政府支援策の綱引きで、一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

10月のエマージング株式市場は下落しました。

1兆元の国債発行を含む中国政府による景気刺激策の報道によって、株式市場が上昇する局面があったものの、米政府による中国への先端半導体の輸出規制強化の動きに加えて、イスラエルとハマスの武力衝突による地政学リスクの高まりを背景に、株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

中国政府による景気刺激策や中国大都市における不動産関連の規制緩和が期待される一方で、中国不動産企業の財務健全性への懸念や、新規住宅販売の不振に伴う景気下振れリスクを背景に、エマージング株式市場は一進一退の展開を予想します。

## 為替市場

：米国の利上げ終了とともに、上昇に転ずると予想

### ◆ 前月の振り返り

10月の新興国通貨は、対米ドルでは下落しましたが、円安が進行したため、対円では上昇しました。

米国金利が上昇し、米ドルが強含んだことで、大部分の新興国通貨が対ドルで下落しました。なかでも、空港料金を巡る政府の保護主義的な政策運営が嫌気されたメキシコペソや、インフレ加速やイスラエル情勢の緊迫化が嫌気されたトルコリラなどの下げが大きくなりました。

### ◆ 見通し

今後については、上昇に転じると考えます。

各国のファンダメンタルズによってまちまちの動きになると思われませんが、新興国通貨全体としては、米国の利上げ局面の終了にともなって、上昇に転じると予想します。

MSCI エマージング・マーケット指数



JPMorgan 新興国通貨指数 (円ベース) (注1)



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年10月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
新興国株式 MSCI エマージング・マーケット指数	59,416.19	56,377.20	59,000	57,000	58,500	59,500
為替 JPMorgan 新興国通貨指数 (円ベース) (注1)	6,764.17	7,110.19	7,173	7,152	7,130	7,105

予測値は予想レンジの中心値を記載

(注1) JPMorgan Emerging Market Currency Index Live SpotとBloombergデータより当社作成

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

## 各資産クラスのリターン実績

青色は期間中に最も高いリターンであった資産クラス、  
赤色は期間中に最も低いリターンであった資産クラスをそれぞれ意味します。  
(国内株式のバリュート指数・グロース指数、外国債券の円ヘッジ、および短期資産を除く)

2023年10月末時点

	国内債券	国内株式	国内株式		外国債券	円ヘッジ	外国株式	新興国債券	新興国株式	短期資産
			バリュート指数	グロース指数						
過去1ヶ月間	-1.6%	-3.0%	-3.4%	-2.6%	0.7%	-0.9%	-1.3%	1.0%	-2.4%	0.0%
過去3ヶ月間	-3.0%	-2.1%	1.4%	-6.2%	1.3%	-4.1%	-3.3%	-0.3%	-6.3%	0.0%
過去1年間	-3.7%	19.8%	31.7%	8.7%	3.4%	-5.4%	12.8%	17.2%	13.4%	0.0%
過去3年間(年率)	-2.4%	15.3%	24.4%	6.7%	4.1%	-8.5%	23.5%	10.6%	9.4%	0.0%
過去5年間(年率)	-1.1%	9.1%	10.6%	7.5%	4.3%	-2.7%	15.9%	7.0%	8.2%	0.0%
過去10年間(年率)	0.2%	9.0%	9.6%	8.5%	3.6%	-0.5%	13.2%	3.6%	6.1%	0.0%
2022年度	-1.7%	5.8%	10.1%	1.5%	-0.5%	-10.2%	2.4%	9.3%	-1.6%	0.0%
2021年度	-1.2%	2.0%	8.1%	-3.8%	2.0%	-5.1%	23.0%	1.6%	-2.3%	0.0%
2020年度	-0.7%	42.1%	40.5%	43.8%	5.4%	-1.9%	59.8%	16.9%	62.7%	0.0%
2019年度	-0.2%	-9.5%	-16.2%	-2.3%	4.4%	7.5%	-12.4%	-9.2%	-19.4%	-0.1%
2018年度	1.9%	-5.0%	-5.2%	-4.9%	2.5%	1.8%	10.1%	-3.3%	-3.3%	-0.1%
2017年度	0.9%	15.9%	12.5%	19.6%	4.2%	0.9%	8.5%	7.9%	19.7%	-0.1%
2016年度	-1.2%	14.7%	19.9%	10.4%	-5.4%	-1.9%	14.5%	4.6%	16.6%	0.0%
2015年度	5.4%	-10.8%	-12.6%	-8.8%	-2.7%	1.2%	-8.6%	-7.8%	-17.2%	0.1%
2014年度	3.0%	30.7%	28.0%	33.2%	12.3%	9.5%	23.5%	3.5%	17.4%	0.1%
2013年度	0.6%	18.6%	18.0%	19.4%	15.3%	1.4%	32.4%	1.7%	8.4%	0.1%
2012年度	3.7%	23.8%	21.6%	25.5%	17.7%	4.6%	29.0%	23.0%	16.9%	0.1%
2011年度	2.9%	0.6%	1.0%	0.3%	5.0%	7.9%	0.5%	2.7%	-9.2%	0.1%
2010年度	1.8%	-9.2%	-11.2%	-6.9%	-7.5%	0.6%	2.4%	0.1%	5.4%	0.1%
2009年度	2.0%	28.5%	30.5%	28.2%	0.2%	2.1%	46.8%	29.3%	71.8%	0.1%
2008年度	1.3%	-34.8%	-29.0%	-41.1%	-7.2%	5.0%	-43.3%	-13.4%	-47.3%	0.4%
2007年度	3.4%	-28.1%	-28.3%	-27.4%	0.5%	2.3%	-16.8%	-1.8%	2.6%	0.5%
2006年度	2.2%	0.3%	3.2%	-2.7%	10.2%	-0.8%	17.9%	14.5%	21.1%	0.3%

Bloombergデータより当社作成

国内債券	NOMURA-BPI(総合)
国内株式	TOPIX(配当込み)
国内株式 バリュート指数	ラッセル野村バリュート指数
国内株式 グロース指数	ラッセル野村グロース指数
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
外国債券 円ヘッジ	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジベース)
外国株式	MSCI KOKUSAI(配当込み、円ベース)
新興国債券	(~2018/01)JPMorgan新興国債券指数(円ベース)
新興国株式	(2018/02~)JPMorgan新興国債券指数(除くBB-格未満、円ベース)
	MSCI エマージング・マーケット指数(配当込み、円ベース)

■本書は、情報提供の目的でSOMPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

## 市場予測

		2023年 3月末 実績値	2023年 10月末 実績値	2023年 12月末 予測値	2024年 3月末 予測値	2024年 6月末 予測値	2024年 9月末 予測値	2023年度 予想騰落率 (注3)
国内債券	Nomura-BPI総合	374.74	359.31	360.24	356.00	354.84	355.29	-5.0%
	10年国債利回り	0.32%	0.95%	0.95%	1.10%	1.15%	1.15%	-
国内株式	TOPIX	2,003.50	2,253.72	2,250	2,250	2,300	2,350	12.3%
	日経平均株価	28,041.48	30,858.85	31,500	31,500	32,200	32,900	12.3%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	510.10	549.10	562.20	563.24	566.91	572.49	10.4%
	米国10年国債利回り	3.47%	4.93%	4.60%	4.50%	4.20%	4.00%	-
	ドイツ10年国債利回り	2.29%	2.81%	2.70%	2.60%	2.50%	2.40%	-
	JPMorgan新興国債券指数（利回り）（注1）	6.52%	6.76%	6.50%	6.40%	6.30%	6.20%	-
外国株式	MSCI KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）	5,644.42	6,451.43	6,760	6,790	6,830	6,830	20.3%
	S&P500	4,109.31	4,193.80	4,400	4,450	4,500	4,550	8.3%
	MSCI EUROPE指数	1,860.70	1,757.61	1,775	1,800	1,830	1,840	-3.3%
	MSCI エマージング・マーケット指数	59,416.19	56,377.20	59,000	57,000	58,500	59,500	-4.1%
為替	米ドル/円	133.09	151.45	151.00	149.00	147.00	145.00	12.0%
	ユーロ/円	144.60	160.08	160.82	158.69	156.56	156.60	9.7%
	JPMorgan 新興国通貨指数（円ベース）（注2）	6,764.17	7,110.19	7,173	7,152	7,130	7,105	5.7%

注1 JPMorgan GBI-EM Global Diversified Index Excluding BB- Rated CountriesについてBloombergデータより当社作成

注2 JPMorgan Emerging Market Currency Index Live SpotとBloombergデータより当社作成

注3 2023年度騰落率は、2023年3月末（実績値）から2024年3月末（予測値）までの騰落率

■本書は、情報提供の目的でSOMPPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

ご留意事項

---

# 投資一任契約に際しての一般的な留意事項

## ● 投資一任契約に係るリスクについて

投資一任契約に基づく運用は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従ってお客様から受託した資産の当初の評価額（元本）を下回ることがあり、さらに元本を超えて損失を被るおそれがあります。

投資一任契約の投資対象は、個別の投資一任契約毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご契約に当たっては契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。

## ● 投資一任契約に係る費用について

[ご契約頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

### ■ 投資一任契約の期間中に直接または間接的にご負担いただく費用

…… 投資一任報酬をご負担いただきます。適用する料率は、運用の対象となる資産、契約資産残高、契約内容等に応じて異なりますので、料率、上限額等を表示することはできません。契約締結前交付書面等でご確認下さい。

### ■ その他の費用等

…… 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。契約締結前交付書面等でご確認下さい。

※当該投資一任契約に係る費用の合計額については、契約期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資一任契約を想定しております。投資一任契約に係るリスクや費用は、それぞれの投資一任契約により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく契約締結前交付書面等をご覧下さい。

## 投資信託をお申込みに際しての留意事項

### ●投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

### ●投資信託に係る費用について

[ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

- 購入時に直接ご負担いただく費用・・・購入手数料上限3.85%（税抜3.5%）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保金上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬上限2.09%（税抜1.9%）
- その他費用等・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。

「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。交付目論見書、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

当該手数料等の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、SOMP Oアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく交付目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

## その他 留意事項

---

- 本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社（以下当社）が作成した資料です。
- 本書は、当社が、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。
- 本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。
- 本書は、法令に基づく開示書類ではありません。
- 当社は、グローバル投資パフォーマンス基準（Global Investment Performance Standards, GIPS®）への準拠を表明しています。なお、当社は、2012年4月1日から2023年3月31日の期間について独立した検証者による検証を受けております。当社は機関投資家向け資産運用及び投資信託運用の意思決定過程が一体化しておりますので、GIPS基準では、全体を「会社」として定義しております。なお、当社のコンポジットの概略一覧表およびGIPS基準に準拠した提示資料は、ご請求に応じご提出可能です。GIPS®はCFA協会の登録商標です。CFA協会は、本組織を認証または推奨するものではなく、また、本書に記載されている内容の正確性または品質を保証するものでもありません。
- 請求先：S O M P Oアセットマネジメント株式会社  
投資顧問営業部 電話：03-5290-3511
- 尚、検証は、会社のコンポジットおよびプールド・ファンドの維持管理ならびにパフォーマンスの計算、提示、および配布に関する方針と手続が、GIPS基準に準拠してデザインされ、会社全体に適用されているかどうかについて保証を行うものです。検証は、特定のパフォーマンス報告書の正確性を保証するものではありません。